

令和2年度 21世紀えひめの伝統工芸大賞入賞作品一覧

21世紀えひめの伝統工芸大賞	21世紀えひめの伝統工芸優秀賞
<p>るり影青流し花器 〔工芸品部門（陶芸品/砥部焼）〕</p> <p>制作者：竹西 予州（砥部町） 所属：ヨシユアクリエイイト(株)/ヨシユア工房</p>	<p>曲寄木 JuJu 〔産業振興部門（木竹工芸品）〕</p> <p>制作者：菅 佑太郎（西条市）</p>
	
<p>（作品説明） 日本の伝統色を意識しつつ、繊細なロク口技法と、複数の技法で釉薬を施し、新たな砥部焼の表現に取り組んだ作品です。 瑠璃色は人気のヨシユアブルーをより深みを増すことで、深淵を表現し、影青（いんちん、水色の釉薬）は流し掛けで動きのある流水を表現しました。</p>	<p>（作品説明） 国内外の銘木や、愛媛の“みかんの木”を使った、曲線による寄木アクセサリー。天然木の自然な色合いと美しい木目を生かすため、無着色で仕上げました。 年輪を重ねた長寿の樹木を使い、珠玉へと成就させた JuJu を是非身に着けてみて下さい。</p>
<p>（審査寸評） 日本の自然風景に由来する伝統色を表現した「瑠璃」と「影青の釉薬」、「生地を生かした透明釉」の3色が、瀬戸内の海、池や川、陸を表しており、様々な角度からその景色が楽しめる。また、水色の青磁部位は流し掛けにより、作品に活力を与えている。 ろくろ技術においては、小さな高台から直線的に薄く広がり、口の部位に微妙なアールを付与していることで、花器の内側・外側ともに見える形に絶妙に仕上げられており、フォルムをまとめ上げる熟練の技術が見て取れる。 芸術作品として美術的価値、コンセプト、技術いずれの点においても非常に高い評価を得た。</p>	<p>（審査寸評） 曲線の特徴とした寄木細工の装飾品で、材料には愛媛のミカンの木をはじめとする国内外の天然木が使用されている。 一般的な寄木細工とは異なり、無垢の天然材を切削機などで曲線切りして作ったパーツを手作業で貼り合わせ、研磨、コーティングをされており、非常に丁寧かつ高い技術を要する。 天然木の持つ、多彩な色合いをうまく組み合わせ、独特の曲線模様や形状を表現しており、楽しく、美しいブローチやネクタイピンなどに仕上げている。 ブランディングを意識した展示什器や演出も含めて商品としての完成度が高く、審査員からも非常に高い評価を得た。</p>

愛媛新聞社社長賞

象さん親子のふれあい

〔工芸品部門（木竹工芸品/伊予竹工芸品）〕

制作者：寺岡 正夫（西条市）



（作品説明）

コロナ禍によって停滞する社会の中で親子の象が触れあう状景を演出して、見る者に象のように焦らずゆっくり歩めと示唆する作品を目指して製作しました。大小、細太の竹ヒゴを組み合わせる硬い身体が愛くるしい生き物に見える工夫をしています。

（審査寸評）

型を使わずに不規則な編み方で形状を整えていく、松山周辺の竹細工に見られる編組技法「やちゃら編」を用いて、トラフ竹（虎竹）を編み上げた作品。

当作品は、竹編組では珍しく、鼻や脚などを動かすことが可能で、高度で熟練した技術により仕上げられている。

また、竹工芸品には珍しい、複雑な造形を編み上げており、竹編組により多彩な形状表現が可能であることが示され、今後の新たな作品展開が期待できる。

象の親子をモチーフとしたこの作品には、「人のいるところには象がいる、という言い伝えのもと、コロナ禍で遠ざかってしまった人々を呼び戻したい」という、作者の願いが込められている。

南海放送社長賞

酒鬼

〔工芸品部門（陶芸品/菊間瓦）〕

制作者：小泉 信三（今治市）

所属：小泉製瓦有限会社



（作品説明）

器の高台を鬼の顔に見立て、角や牙が視点となるデザインが特徴です。

手づくりのため一つ一つ顔が異なり、自宅で過ごす時間が増えたこの時期に、ユニークな器で少しでも楽しい時間を過ごしてほしいとの思いを込めました。

桧の木箱に入ったお猪口5客セットや、「阿吽」と命名された2客セットもあり、贈答用にも最適です。

（審査寸評）

伝統的な鬼瓦をモチーフに実用性のある酒器として製作された作品。粘土の技術的限界の高温で焼成することにより、瓦の特徴である吸水性を無くすと同時に、支点となる角や牙の先端部分が若干へこむことで、設置安定性を付与している。

3度焼成による「黒いぶし色」と、酸化焼成による「赤色」の2色で展開されており、一つ一つに異なる表情が楽しめる。

阿吽・陰陽の組み合わせによりバリエーションに富み、5客セットは贈答用として利用できるなど、商品としての完成度、コンセプトのユニークな点に高い評価がなされた。

テレビ愛媛社長賞	あいテレビ社長賞
<p style="text-align: center;">ima/oru ZABUTON</p> <p>〔産業振興部門（繊維製品/伊予かすり）〕 制作者：柴田 幸雄（松山市） 所属：白方興業株式会社</p>	<p style="text-align: center;">まぼろしの姫てまり 尺と6寸</p> <p>〔工芸品部門（その他工芸品/姫てまり）〕 制作者：田村 美幸（松山市） 所属：姫てまり工房</p>
<div style="text-align: center;">  </div> <p>（作品説明） 伊予かすりの魅力を今に時代に編みなおすをコンセプトにして生まれた商品です。 暮らし・生き方の変遷とともに、そのニーズを奪われていった「伊予かすり」と「座布団」を組み合わせ、生地はもちろん、中綿、フサやブランドタグなど細部にまでこだわり、伊予かすりの新たな価値の提案を目的に制作した作品です。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>（作品説明） 本県で受け継がれる姫てまりのなかでも、伝統の技術を生かした最高級品です。</p> <p>〈尺〉姫てまりの伝統柄を用いた、製作可能ななかでも最大サイズの作品です。 〈6寸〉伝統的手法を用いながらも、遊び心を加えた柄によりアート性を高めたモダンな作品です。</p>
<p>（審査寸評） 天然藍を使用した伊予かすりを用いた作品で、工芸店や寝具店、技術研究機関等と共に立ち上げた、今の時代に合った伊予かすりの魅力を発信するためのブランド「ima/oru（いま/おる）」の商品として誕生した作品である。 当作品は、細部にまでこだわり、天然藍染めの手織り生地やタグデザインはもちろん、現代の暮らしのなかでの使用を想定し、椅子に着座する際にも最適な小振りサイズながら弾力性や耐久性に富むつくりとなっている。 伊予かすりの伝統柄をReデザインすることで生まれた「しま」と「あられ」の2種のデザインは、「モダンで現代風家屋にもマッチする」と審査員から高い評価を得た。</p>	<p>（審査寸評） 本作品は、愛媛の代表的な伝統工芸品である姫てまりを、〈尺〉においては伝統的な柄と赤を基調とした明るいメリハリの利いた作品、〈6寸〉においては遊び心のある柄と色使いでモダンな作品という2点で構成されており、そのコントラストも注目された。 特に〈尺〉は、作者の長年培ってきた姫てまりの伝統的な技を惜しみなく注ぎ込み、本県の伝統工芸品として誇れる、見ごたえのある作品となっており、工芸品としての姫てまりを今一度問いかけているような、作者の意気込みが感じられる逸品に仕上がっている。 なお、尺サイズを製作できる技能を有する者が作者以外にいないこと、尺玉の芯を作成する者が現在いないという希少性も高く評価された。</p>

愛媛朝日テレビ社長賞	21世紀えひめの伝統工芸奨励賞
<p style="text-align: center;">MIZUHIKI 和景 〔工芸品部門（紙製品/水引製品）〕</p> <p>制作者：篠永 芳美（四国中央市） 所属：株式会社 有高扇山堂</p>	<p style="text-align: center;">伊予一刀彫「明莉」十五人飾り 〔工芸品部門（木竹工芸品）〕</p> <p>制作者：西川 信平（松山市） 所属：株式会社 南雲</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>（作品説明） 水引そのものの凜とした直線美と、伝統的な「結び」の技法に依って生まれる曲線美の双方を生かした現代アート。丸障子をイメージした漆器との組み合わせにより、格調ある中にも明るい癒しの空間を演出できるアートパネルができました。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>（作品説明） 作品名は「明莉」。こんな時代だからこそ、光・未来を感じる名前をつけております。 人形は、流行している色合いを取り入れ、明るくコントラストのある色合いを意識しました。 段には桜材を使用し、木目を生かした仕上げとなっていますので現在の洋間にもマッチします。</p>
<p>（審査寸評） しなやかで芯のある水引の素材の特性を生かしつつ、水引結びの技術を駆使することで生まれた立体感が特徴の作品。 瀬戸の島影をモチーフとして制作された【蒼海（そうかい）】と、花と蝶をイメージし、【陽花（ようか）】という異なるコンセプトで構成された作品は、いずれも伝統的な結びを生かしながらも、他国の民芸品から着想を得た新しい結びを用いることで、水引の新しい表現へのチャレンジが見て取れる。 和・洋を問わず、様々な空間で使用できるアートパネルとして、水引の新しい商品制作に挑戦した意欲作である。</p>	<p>（審査寸評） 少子化や生活スタイルの変化に伴い近年の雛人形市場で人気が高まっている、コンパクトかつ可愛い表情に仕上げられた作品である。 材料にはヒバや桜、桐などの天然材を使用し、熟練した一刀彫の技法によりシンプルかつシャープなラインでありながら、人形の顔は、繊細な線で、柔らかく、愛らしい表情に描かれており、完成度の高い作品に仕上がっている。 服装等は流行の色合いを意識したもので、和洋どちらの部屋にもマッチするほか、15人飾りとしてはコンパクトなサイズにまとめられ、収納専用の桐箱を設けるなど、住環境も考慮した作品となっている。</p>

21 世紀えひめの伝統工芸奨励賞	21 世紀えひめの伝統工芸奨励賞
<p style="text-align: center;">風穴に咲く青いけし 〔工芸品部門（陶芸品/砥部焼）〕</p> <p>制作者：泰山 多津子（砥部町） 所属：泰山窯</p>	<p style="text-align: center;">リムプレート ユラギ い・ろ・は 〔産業振興部門（陶芸品/砥部焼）〕</p> <p>制作者：遠藤 愛（砥部町） 所属：遠藤窯</p>
<div style="text-align: center;">  </div> <p>（作品説明） 東温市にある風穴に咲く青いけしの花をイメージして、色絵の花の部分には呉須とパステルという異なる種類の絵の具を用いるとともに、背景は和紙染めの技法を用いた着色を施すことで、東温市にある「風穴」に咲く儂くも強い青いけしの花をイメージしました。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>（作品説明） リムの縁と内側のゆらぎにより、瀬戸内の静かな波打ち際を表現しました。 遠藤窯オリジナルの釉薬を使い、盛り映えのするカラーバリエーションと、利用頻度の高いサイズを展開。 幅広い年齢層に使って頂けたら、嬉しいです。</p>
<p>（審査寸評） 東温市にある風穴に咲く青いけしの花に魅せられた作者が、風にはかなくたなびく花に、“底知れぬ魅力（花言葉）”を感じ、その動きを染付で表現した作品。 その柔らかなタッチに加えて、和紙染めの技法を背景に使うことで、作者の絵付け作品の魅力となっている。 伝統工芸士である夫の手ろくろによる成型と美しい絵付けが融合した本作品は、美術的な価値について高い評価を得ており、普段はオブジェとして観賞用に用いながら、特別なゲストを招いておもてなしをする際には、和・洋のオードブルやパスタ料理の盛りつけにも利用できる作品である。</p>	<p>（審査寸評） 粘土の板を石膏の型に押し付ける“たたき成形”により成型されており、ろくろ成形では得られない風合いが特徴の作品。 5種類の釉薬を用い、それぞれの釉薬で焼成温度を調整することで、絶妙な配色を生み出している。 多色展開により、盛り付ける料理に合わせたコーディネートを選択できることに加えて、使い勝手のよい大きさの皿をそろえており、使い手が活用するシーンにまで細やかな配慮がなされている。 商品価値について高評価を得るとともに、同じカラーを3枚重ね合わせることで、瀬戸内海の浜辺の波紋をイメージしたデザイン性や機能性についても評価が高かった。</p>

<p>21 世紀えひめの伝統工芸奨励賞</p>	<p>21 世紀えひめの伝統工芸奨励賞</p>
<p>SOUND CAGE 〔産業振興部門（木竹工芸品）〕 制作者：和田 康宏（久万高原町） 所属：株式会社 和蔵</p>	<p>染付草文風鈴 〔産業振興部門（陶芸品/砥部焼）〕 制作者：恒岡 志保（砥部町） 所属：大南共同陶房</p>
<div data-bbox="221 436 730 815" data-label="Image"> </div> <p>（作品説明） スマートフォンから流れ出るデジタル音を、アコースティックな柔らかい音に変え、増幅して解き放ちます。 久万山の無垢の木を使用しており、経年化に伴い深みをまましていく木の表情とサウンドをお楽しみください。 電源不要のエコな木製スピーカーです。</p>	<div data-bbox="879 436 1372 815" data-label="Image"> </div> <p>（作品説明） 付け立ての技法で伸びやかに成長する夏草を描きました。 白と青のコントラスト、高温で焼成された砥部焼きならではの柔らかく澄んだ音色が涼やかな風と共に昨今の暑い夏を彩ります。</p>
<p>（審査寸評） 久万高原町産の杉の無垢材を使ったスマートフォン用スピーカー。 近年、スマートフォン端末をスピーカーにつなぎ、手軽に音楽を楽しむ人が増えている中で、木製スピーカーによる暖かな音の広がりや、電源を必要とせず、どこでも使用できるという点が高く評価された。 また、当作品はボックスの内部に反響版を設置し、スマートフォン端末から流れる音を増幅して、正面や上面に開けられた多数の穴から音を出す構造であるが、穴の部分はレーザーで切断加工することでレーザーの焦げ色を残し、意匠的效果を出している。</p>	<p>（審査寸評） コロナ禍において自宅で過ごす時間が多くなった方に、故郷を懐かしく思い出す作品として使っていただきたいというコンセプトのもとに製作された。 涼しさを感じられる意匠を目指して、表面をサンドブラスト加工としている。 砥部焼の特徴が一目でわかる作者オリジナルの草文が付け立てにより描かれているほか、手漉きで製作された大洲和紙を用いた短冊を使用しており、本県ならではの工芸品として仕上がっており、そのコンセプトと併せて評価された。</p>